

平成29年度 第1回 尼崎21世紀の森づくり協議会 議事録

日時 平成29年11月15日(水) 09時45分～11時30分

場所 尼崎の森中央緑地パークセンター会議室

■協議会会長選任

出席委員の互選により中瀬委員を会長に選任

■会長挨拶

今週末の阪神北県民局で「里山ミュージアム」に関する国際フォーラムが開催される。フォーラムの内容は、経済と里山を結びつける取組の紹介。例えば、台湾高雄の里山で学生が会社をつくって茶畑を運営して製品を販売し、地域活性化に結び付けている取組やインドネシアのエコツーリズムの内容が紹介される。

今月は鳥取で「緑からまちづくりをどう考えるか」フォーラムが、また来月は東京で「これからの公園のマネジメントについて考える」フォーラムがある。

兵庫県の場合、淡路島公園のニジゲンノモリ、有馬富士公園の彫刻と自然の融合の取組など民間活力を入れた都市公園のパークPFIの動きが進められている。

尼崎にもたくさんネタがたくさんあるので、これだというテーマを2～3つほど絞り込み再整理して取り組んでいただきたい。

この公園ができた一番のきっかけは、東京の伊藤滋先生が100年かけた森づくりを掲げて取組できたことにある。今後機会あれば、関東へのPRを検討すると良いと思う。

■議事1. 平成28年度第2回協議会委員意見**○資料説明(事務局)**

資料1 委員意見と対応、資料2 尼崎の森中央緑地整備状況、資料3 コミュニティサイクル利用状況、資料4 工場緑化推進方策検討会の協議状況をもとに、事務局より説明。

○意見交換

委員 : レンタサイクルとはどのようなものか。

事務局 : 30台の自転車(うち15台は電動自転車)で運営している。水曜日は定休日になっている。

委員 : 定休日がないほうが使いやすいと思うが、このレンタサイクルの取組は、誰に対して、何のために事業を実施しているのかなどについて、教えていただければ、もっとPRに協力しやすくなると思う。

事務局 : 自転車のメンテナンスなどが必要なため定休日を確保している状況である。臨海部へのアクセスの向上と尼崎21世紀の森づくりの認知度をあげることを目的に検討され、主に観光客などをターゲットにしている。

レンタサイクル事業は、社会実験として11月末まで実施している。利用者には、利用目的、訪れた場所などを質問するアンケートをおこなっており、その結果はまたご報告させていただく。

会長 : 神戸市でのレンタサイクル事業の運営状況を調べていただければよいと思う。またサイクリングロードを武庫川とリンクさせて、大きなネットワーク構想を検討していただきたい。事例として加古川において、加古川市から丹波まで河川沿いを整備する壮大な構想を検討している。

委員 : ネットワークの件であるが、4~5年前、国、県、市と交通管理者が連携して自転車ネットワーク計画を策定し、現在道路を青く塗装した自転車専用道の整備などを中心に取組んでいる。10年計画であり、自転車が走りやすい環境づくりをさらにPRしていきたいと考えている。

■議事 2. 平成29年3月以降の主な取組

○資料説明（事務局）

資料5 平成29年3月以降の主な取り組みをもとに、事務局より説明。

○意見交換

委員 : 森の会議は、会議やイベントを含め年間の週末の半分近くで、関連する取組が行われている。

私も森の会議に参加しているが、これから、森構想区域の外で実施する取組として兵庫県立公園を巡るプロジェクトを企画しているので、今後進めていきたい。例えば、ご朱印帳、ダムカードを参考にした公園カード、スマホアプリなどを活用する手法等についても検討していきたい。

あと尼崎の森中央緑地の整備計画に関連する、栈橋の利用の方針について、次回以降で結構なので、教えていただきたい。

会長 : 有馬富士公園、一庫公園などの公園や地域にある自然の天然記念物をつなげて公園をネットワークする取組が進められている。尼崎の森中央緑地も生物多様性の森づくりに使用する森づくりのタネも武庫川流域から採取しているといことから、ネットワークのネタはたくさんあるので、公園ネットワークの取組はぜひ進めていただきたい。

委員 : ご朱印帳は、日付も記入するので、思い出も記憶に残るのがよいと考える。

委員 : 現在、栈橋を使って尼崎港の環境再生に取り組んでいる。具体的には森と海をつなぐという尼崎港における都市型の里海づくりに取り組んでいる。防波堤のへりに浅い部分があって、あさりの生息する人工の干潟をつくっている。

また、のびのび公園では、海のをものを堆肥化し、菜の花を育て、油を搾って食べるなどに活用している。

また、運河を含め里海の取組として、尼崎の先生と都市型ESD「持続可能な開発のための教育」に関連させて取り組んでいる。

栈橋は海と森をつなぐ良い道具になるので、ぜひ使わせてもらえればよいと考える。

委員 : 来年運河サミットもあることなので、可能であればアクセス向上の方法として栈橋周辺

を使うことも検討できれば良いと考える。

委員 : イベントに参加した、参加者の住まい、交通手段、イベントの参加目的など属性を今後教えていただきたい。

事務局 : イベント開催時にはアンケート調査を行っており、属性については把握しているので、次回ご紹介できる。

■議事 3. エピソードの集約・分析に向けて（活動体森の会議の活性化方策の検討）

○資料説明（事務局）

資料 6 エピソードの共有による森づくり活動の事業の展開に向けて をもとに、事務局より説明。

○意見交換

委員 : エピソードの共有に向けて、楽しい分析になりそうだ。森の文化祭など運営サイドは、楽しいことは大前提になっている部分がある。それよりも今後の 21 世紀の森づくりのかかわり方の可能性等、これからどう関わっていくのかつなげることが重要である。何人来たかのアウトプットではなく、アウトカムが大事で社会的にどのようにインパクトがあったのかが重要である。

イベント自体は楽しいが、そのあと尼崎 21 世紀の森づくりとどうかかわるのが大事なので、自分がかかわるイベントでもエピソードを集めたいと思う。

委員 : 学校でのチラシの配布がモリンピックの参加のきっかけになったことをご紹介いただいたことは非常にうれしい。学校では色々なチラシが来るので、取捨選択しないと何が大事なものかわからなくなる。その意味で、尼崎 21 世紀の森づくりの取組は、他のイベントと差別化出来ていてよいと考えている。

また、小学 4 年生の 8 割の子どもが環境学習でここに来るので、その時に PR していただければよいと考える。

あと、お知らせですが、夏休みが短くなり平成 30 年から尼崎市の小中学校しも 8/25 から 2 学期になる。8/11～8/17 までは夏の学校閉鎖になるので、その時には、色々と参加しやすいと思う。

委員 : 森づくりを色々なところで PR することは良いと思うが、市民と話す機会が少なくなっている所以市民と対話しながら PR すると良い。また、イベントは参加者が一過性になるおそれもあるので、苗木の配布をイベントなどで行い、その苗を家の庭などで育ててもらふことで、尼崎 21 世紀の森づくりを思い出してもらえればよいと考える。

会長 : 生物多様性の森づくりの取組の中でどんどん提案していただければよいと思う。

委員 : エピソードについては、事務局と丁寧に打合せしながら進めている。今後エピソードをどのように分析し、どう尼崎 21 世紀の森づくりにフィードバックするが重要である。

今後エピソードから「カイゼンのタネ」があるので、これをひろって尼崎 21 世紀の森づくりのカイゼンにつなげられれば良いと考えている。

また、モリンピックはそれだけで完結するのではなく、色々な事業に派生している。広報のあり方、どんな人がきているか、工場従業員のかかわり方等含め、県市のプロジェクトがいっぱい行われている。ただ、現在、これらたくさん取組が羅列されていて分からない状態になっている。

もともとモリンピックは、工場の方々にもっと尼崎 21 世紀の森づくり活動を知ってもらうために企画された経緯があったようだが、現在忘れられている部分もある。

今後は、何のためにやっているのかなど理念があり、その関わりが分かる「大きな木」を描ければいいと考えている。事業同士のシナリオを見出すと、皆さんとの議論も楽しくなると思う。

改善のタネと、全て網羅するわけではないが、森づくりの木について次回作成を期待したいと考えている。

参加者の方からエピソードをきき、そこから改善のタネを見つけ、それを企画した人が次の企画や反省会などを通じてふり返り、次の活動に活かしていくパターンにしていければよいと考えている。

委員 : うんぱくとキャナルフェスを引っ付けるために運河サミットをやろうとしている。

会長 : 最初に議論した理念や意気込みは 3 から 4 年経つと変わってくる。何かそのよう課題を議論できるしかけは必要である。

いいねカードも、中央緑地で日常的に書けるようにしておくことを検討して欲しい。「うずしお科学館」や「コウノトリの郷公園」も自由に意見を記述し、玄関に張り出している。せっかくきたのに何も残さないのはおもしろくない。以前、有馬富士公園で何かの形で自分の痕跡を残すことで、また訪れてもらうしくみを議論したことを思い出したので提案した。

委員 : モリンピックの協賛企業に、いいねカードを書いていただくのも良いと思う。

■議事 4. その他 工場緑化推進方策検討会の協議状況

○資料説明 (事務局)

資料 4 工場緑化推進方策検討会の協議状況をもとに、事務局より説明。

委員 : アンケートで森構想の認知度の分析についてであるが、回答率を含めると実質は工場全体で認知度が低い状況のなか、緑化の意識をどのようにしようとしているのかお聞きしたい。

事務局 : 現段階では、構想やその内容を認知して頂いているとはいえないと考えている。ただ、会社の担当者も代わっていきなかで、なかなか浸透していかない状況である。このため、企業の集まる場で、続けて尼崎の 21 世紀の森構想を PR していくことを考えている。

会長 : アンケート対象を総務課ではなく、福利厚生課にしてみてもどうか。丹波で取組んだ企業の森づくりのときは、福利厚生課をアンケート対象にして、非常に良く協力していただいた。労働組合も協力してもらえる可能性が高いと思う。またアンケート用紙は、より多くの人に広げてもらえるように1部だけでなく大量に配付したほうが良い。

委員 : 工場街は遊びにくるところではないと考えている会社の方が現実として多い。

■閉会

会長 今日たくさん前向きな意見が出ました。引き続き、事務局で御検討お願いいたします。人と自然の博物館元職員で、現在尼崎工業高校の職員が、高校生に講談を教えている。一度声かけしていただければおもしろいかもしれない。また、アメリカのシアトルのガスワークスパークという街があり、尼崎と同じ立地で都市ガスをつくっていた工場地帯があった。1970年代に工場地帯をやめて、公園にしている都市がある。神戸市と姉妹都市であるが、グローバルな視点で尼崎との連携も考えられる。